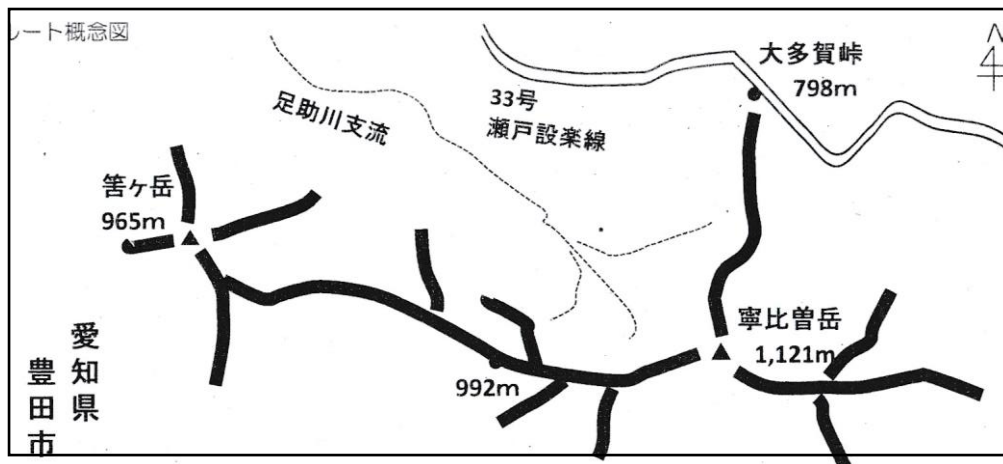


2020年7月19日／寧比曾岳へ



定例山行。四カ月ぶり。

2020年7月19日(日)、4ヶ月ぶりの会の定例山行が西三河の寧比曾岳で行われました。参加者は22人。天候は晴れ。

新型コロナウイルス禍の影響で、会の活動も数カ月間足踏み状態。緊急事態宣言は解除されましたが、その後も、油断できる状況にはありません。

会員もマスク着用、消毒、密を避ける…そんな日常的な感染予防に緊張しながら山に戻って行こうとしている時期です。登山のリハビリとしての山域設定、往復のアプローチ、パーティー編成、早朝の出発など、密を避ける工夫をしながらの実施となりました。

当日は5時半集合・出発。車4台に分乗してのアプローチ。7時に大多賀峠着。

7時14分、4パーティーに分かれて、登山口を出発。

登山口からの急な階段を登ると、樹林帯の緩い登りが続きます。広々とした人工林の中の道には、ところどころに立派な標識や、ベンチと防火水槽の休憩所が設けられています。登ること約1時間、“山頂まで15分”の標識を過ぎ、緩やかな丸太の段々が現れ、登り切るとあずまやに出、その奥が山頂。時間は8時15分。1121mの山頂は東海自然歩道の愛知県内最高地点。県内の山では七番目の標高で周囲の見晴らしもいい。

8時33分、筈ヶ岳へ向かいます。尾根上の樹下の広々としたアップダウンをいくつか過ぎ、林道と出会いますが、尾根上の歩道を忠実にたどって、再び林道と出会うところから急な斜面を登り切ると、小さな広場に出ます。正面は金蔵連峠に向かう道、右に折れて、平たんな尾根の踏み跡を登っていくと、手前に大きく枝分かれした松の古木、その向こうに筈ヶ岳(965m)山頂の三角点があります。9時43分着。

全パーティーが揃ったところで、全員がマスクをして集合写真。これは世界的な新型コロナウイルス流行時の登山の記録として、歴史的な一枚になるかも知れません。

その後、メンバーが担いできてくれたスイカにかぶりついて喉をうるおしました。

10時、下山開始。寧比曾岳までの登り返しは少々汗をかきました。

11時20分、寧比曾岳着。先に到着した仲間たちが、あずまやでコーヒーを淹れてくれていました。広いあずまやは、間隔をあけて全員が入ってもまだ余裕があります。

11時30分、下山開始。気温は24.5度。

大多賀峠着11時30分。

大多賀峠から寧比曾岳、さらに筈ヶ岳の高低差を合わせても450mほどの登り下りでしたが、久しぶりの登山というひと、入会したてのひと、さらには「舐めとった…」というひともいて、さまざまな登山が展開されたようです。

会員ひとりひとりが山に戻っていくために現状を自覚するスタートラインとしては、今回はなかなかいい登山になったような気がします。

(洞井孝雄)